

活動名	「介護事業所の有志の職員が立ち上げた『かまくら認知症ケア研究会』の取り組み」
要旨	介護事業所の有志職員が研究会を立ち上げ、本人本位のケアの実現を目指し、センター方式勉強会、事例検討会、フォーラム開催等を実施。事務局や予算をもたない中、行政の協力を得て地域のネットワークの輪を広げている。
応募者	かまくら認知症ケア研究会 稲田 秀樹
連絡先	〒248-0012 神奈川県鎌倉市御成町2-5 社会福祉法人鎌倉静養館ケアセンターりんどう内

1. 概要

2007年秋、鎌倉市内のとある老舗お好み焼き屋に9人のケア関係者(地域包括支援センター、グループホーム、通所介護、訪問介護、ケアマネジャーなど)が集まり、「認知症ケア関係者の集い」と称した飲み会が行われました。会の冒頭、レジメと配布資料が配られると幹事からはこんな挨拶が...。「認知症ケアにはチームワークが何より大切といわれています。お集まりの皆さんもお好み焼きを作るという共同作業を通じて、ぜひ交流を深めてまいりましょう...」。その飲み会が後の「かまくら認知症ケア研究会」につながる貴重な一歩になったのです。

早くも飲み会の翌々日には、鎌倉市高齢者いきいき課(旧高齢者福祉課)を交えて協議し、「かまくら認知症ケア研究会」立ち上げの方向で意見が一致しました。その頃鎌倉市の高齢化率は25.9%(現在26.6%)となっており、認知症対策は“待ったなし”といった現状にありましたので、市にとってもちょうどいいタイミングだったようです。

「かまくら認知症ケア研究会」(以下研究会)の活動の目的は、『ケア関係者の資質の向上を図り、認知症ケアを通じて地域のネットワーク作りを進めることにより、本人本位のケアを実現し認知症の人と家族の生活を支援すること』(研究会規約より)にあります。

2008年度には、本人本位のケアを実践する足がかりの活動として、『センター方式勉強会』(全4回、延211名参加)を実施。また市主催の研修会「認知症になっても地域でその人らしく暮らし続けるために」に企画協力。「認知症の基礎的理解」(42名参加)を深める研修会を実施。「地域ケアのネットワークの在り方」(59名参加)では、地元の家族会と研究会、介護事業者が連携して困難ケース改善活動を行った報告会を行いました。また、困難な状況にある介護事業者を、参加者みんなが知恵を出し合い、支えあえる仕組みづくりを目指した「参加者提案型の事例検討会」(66名参加)も実施しました。2009年度には「事例で学ぶ認知症の人への対応」(101名参加)の研修会に於いて本人本位のケアの実践例を紹介したり、また「ケアネットワークを考えよう」というテーマで、フリートーキングの集いも実施しています。

参加者の多くは仕事を終えてから駆けつけるので、疲れを溜めない工夫も必要です。勉強会の会場には常にコーヒーやちょっとしたお菓子などを置いた休憩処を設置しています。お菓子などの代金は参加者の気持ち程度のカンパによってまかなわれています。

2009年7月11日には、鎌倉市と共催で「認知症地域支援フォーラム...認知症になっても地域でその人らしく暮らすために」を開催。研究会はフォーラムの概要案の作成、企画構成や関係者間の調整、会場設営から当日の進行を担いました。行政、市民、福祉関係者、介護事業者がともに考え、ともに作り上げたフォーラムとなりました。

2009年9月、幹事を集めた会合に於いて活動内容の検討が行われ、今後は「地域のネットワーク作り」により重点を置いた活動を実践していくこととなりました。現在、既存のサービスで支え切れないニーズに対応するべく、新たな取り組みを開始しています。

実は私たちの研究会には事務局も予算もありません。研修会案内の郵送などは行政の協力をいただいています。今後もさまざまな機関、市民、地域の活動と連携してネットワークの輪を広げていきたいと考えています。

2. 地域の紹介

鎌倉市は、関東地方神奈川県南部に位置する歴史的風土の豊かな都市です。東西8.75 km、南北5.20 km、面積は39.53 km²であり、南は相模湾に面し、三方を多摩三浦丘陵群の小高い山々に囲まれた美しい自然環境に恵まれています。

鎌倉市は、65歳以上の高齢者人口が平成21年3月末現在46,970人で、全人口に占める割合は、26.6%となり、超高齢社会となっています。要介護認定者は、平成21年3月末現在7,487人で、介護保険制度発足当時の平成13年3月の3,625人に比べると約2倍になっていて、これからも増加していくと考えられます。また、介護保険給付費についても、制度発足当時と比較して、居宅サービスでは約3倍、施設サービスでは約1.5倍で、全体としては約2.3倍の伸びを示しており、平成21年度には給付費が100億円を超える見込みとなっています。

平成27年には「団塊の世代」といわれる人たちが全て65歳以上となり、さらに高齢化が進む中、いかに健康を維持し、いきいきと過ごせるかが重要な課題となっています。さらに、多様な価値観を持つ高齢者が増えることによる、新たな高齢者像を視野に入れたサービスの構築を進めることも課題となっています。

(平成21年度 鎌倉市高齢者保健福祉計画)

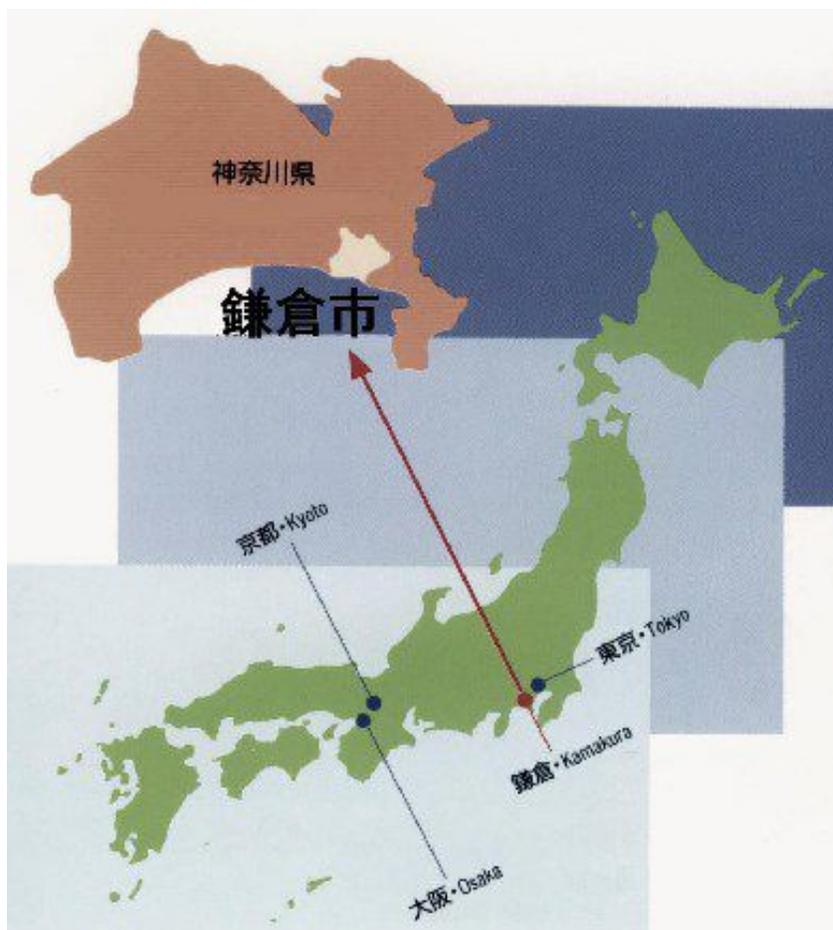
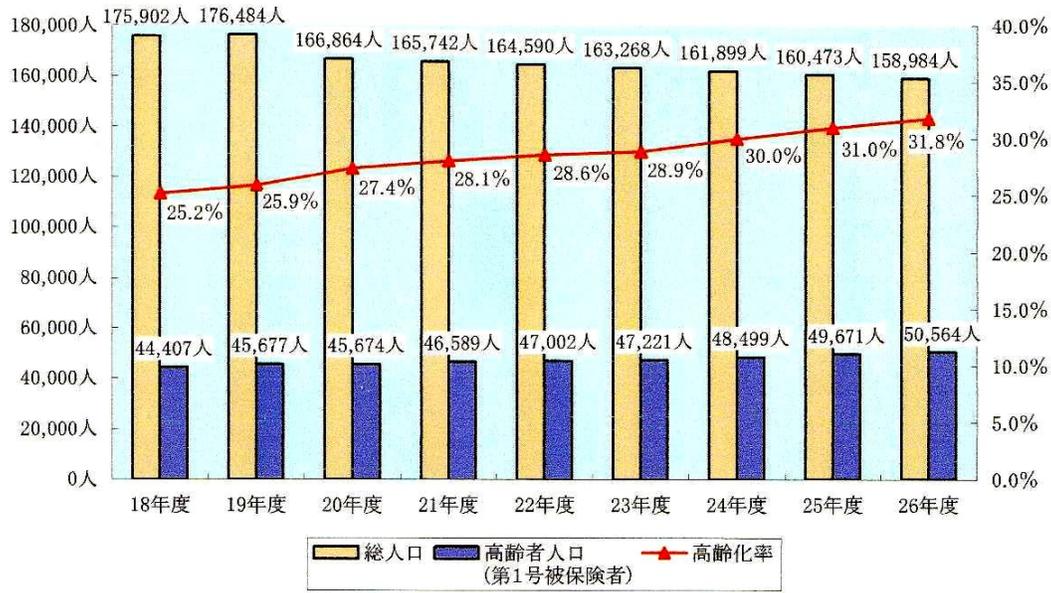


図1 鎌倉市の総人口と高齢者人口の推移



平成 21 年度 鎌倉市高齢者保健福祉計画

図2 地域別の人口と要支援・要介護認定者数（平成 20 年 12 月末現在）

玉縄地域	人口	要支援・要介護認定者	
40歳未満	11,499人	軽度	279人
40～64歳	8,667人	中・重度	485人
65～74歳	3,157人	合計	764人
75歳以上	2,143人	認定率	14.42%
合計	25,466人	高齢化率	20.81%

玉縄地域

大船地域

大船地域	人口	要支援・要介護認定者	
40歳未満	18,355人	軽度	726人
40～64歳	14,039人	中・重度	797人
65～74歳	5,360人	合計	1,523人
75歳以上	4,526人	認定率	15.41%
合計	42,280人	高齢化率	23.38%

深沢地域	人口	要支援・要介護認定者	
40歳未満	14,255人	軽度	635人
40～64歳	11,485人	中・重度	687人
65～74歳	4,843人	合計	1,322人
75歳以上	3,990人	認定率	14.97%
合計	34,573人	高齢化率	25.55%

深沢地域

鎌倉地域

鎌倉地域	人口	要支援・要介護認定者	
40歳未満	17,522人	軽度	1,051人
40～64歳	16,686人	中・重度	1,358人
65～74歳	6,846人	合計	2,409人
75歳以上	7,046人	認定率	17.34%
合計	48,100人	高齢化率	28.88%

腰越地域	人口	要支援・要介護認定者	
40歳未満	9,329人	軽度	584人
40～64歳	8,970人	中・重度	616人
65～74歳	4,016人	合計	1,200人
75歳以上	3,750人	認定率	15.45%
合計	26,065人	高齢化率	29.79%

平成 21 年度 鎌倉市高齢者保健福祉計画

3. 活動の内容

1) センター方式勉強会

- ・平成20年4月～7月、

本人本位のケアを実践することを目的に、多職種の介護事業者職員らに呼びかけ、「センター方式勉強会」(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)を実施しました。4回の延べ参加者数は211名でした。参加者には実際の事例を持参してもらい、グループワークを通じて参加者間の交流が図られる工夫を行いました。作成したチラシにはこんなふうにしてありました。『勉強会は単にスキルアップの場というだけではありません。参加者の人たちとの交流を通じて、ケアの気づきやヒントが得られる場、そこへ行けば現場の苦勞を分かちあえ、明日への活力を感じられる場でありたいと考えています。職種や立場の違いを超えて、認知症の方のケアで困っていることを一緒に考えていきませんか!』第4回の勉強会後に実施したアンケート結果をみると、<講義内容>では「理解できた」「まあまあ分かった」が69%、<参加者間の交流>では「十分あった」「ややあった」が83%、<ヒントや気づき>では「十分あった」「ややあった」が97%となっています。この結果からも、センター方式勉強会が本人本位のケアを実践する足がかりとなったことがわかります。この勉強会をきっかけに、認知症の人の思いに沿ったケアが広がりをみせています。

2) 参加者提案型の事例検討会

- ・平成21年1月23日、ケア関係者同士の支え合いを目的とした事例検討会を実施しました。これは困難な状況にあるご本人やご家族と介護事業者等を、参加者みんなが知恵を出し合い、支えあえる仕組みづくりを目指したものです。参加者には、グループワークで率直に意見を交わし、支援の在り方やケアの工夫を考えシートに記入して提案してもらいました。自由に発言できるアットホームな雰囲気づくりを心がけたこともあり、「大変でしょうが頑張ってください」という励ましの声が出たり、事例の提出者から「みなさんありがとう」という感謝の言葉が語られるなど、検討会の終る頃には、会場全体が温かな一体感で包まれていました。多職種協働をより有効に実践し広めていくためには、認知症の本人や家族の姿を的確にとらえ、ケアに当たっている専門職をさらに支える仕組みが必要で、その点では大変意味のある試みだったと思っています。

3) 認知症地域支援フォーラムの共催

- ・2009年7月11日には、鎌倉市と共催で「認知症地域支援フォーラム...認知症になっても地域でその人らしく暮らすために」を開催しました。研究会はフォーラムの企画構成や関係者間の調整、会場設営から当日の進行を担い、行政、市民、地元の認知症の家族会、福祉関係者、介護事業者が協働し、ともに作り上げたフォーラムとなりました。参加者アンケートの中で特に目をひいたのは、市内の中学生による認知症の福祉体験学習の報告でした。「中学生の発表が良かった」「子どもの発表があったことで、本当の意味で地域支援フォーラムとなった」などの感想が多く寄せられました。またこのフォーラムの特徴は、報告者やシンポジストをいわゆる有識者と呼ばれる人たちにお任せするのではなく、地域の発展に尽くし地域福祉の役割を担っている、子供も含む市民の方々をお願いしたことでした。認知症の人の視点から、また認知症の人が暮らしている地域の視点から、支えあうとはどういうことなのか、自分たちに出来ることは何だろうか、参加者一人一人が率直に考える機会となりました。認知症の人を支えるネットワークの構築へ向けて、明日へつなげる歩みを実感した一日でした。

センター方式勉強会



参加者提案型の事例検討会



認知症地域支援フォーラム



4) かまくら認知症ケア研究会活動履歴

- ・平成 19 年秋、研修を共にした市内の認知症ケア関係者 3 人の雑談中、多職種協働のネットワークの必要性について話題となる。年内に意見交換会をかねた飲み会をやろう!との話でそのときは落ち着いた。
- ・平成 19 年 11 月、「認知症ケア関係者の集い」としてケア関係者に呼びかけ、市内のお好み焼屋でレジメと添付資料のある飲み会を行った。その際、認知症ケア関係者のネットワークの必要性で意見が一致し、また福岡県大牟田市の取り組み、センター方式を活用した若年性認知症の改善事例の話で盛り上がるなどして、その後の具体的な活動へ繋げていった。(参加者 9 名)
- ・平成 19 年 11 月、(飲み会の翌々日)鎌倉市高齢者いきいき課(旧高齢者福祉課、以下同じ)を交えて協議、「かまくら認知症ケア研究会」立ち上げの方向で概ね意見が一致し、主要な市内のケア関係者に認知症ケアの課題 3 点を上げてもらうことを決める。
- ・平成 19 年 12 月、市内の介護事業所職員 15 名が集まり話し合いを持つ、認知症ケアの課題を整理する、今後の活動内容として、平成 20 年度にセンター方式の勉強会を行うことで合意。同時に勉強会の概要を作成する作業を開始。研究会については、あえて組織化は行わず、名簿も作成せず、当面代表も置かないこととした。(参加者 15 名)
- ・平成 20 年 1 月、12 月に引き続き有志が集まり、4 月からの勉強会について説明を行い、具体的なカリキュラムの作成に取り掛かる。
- ・平成 20 年 2 月、センター方式活用事例の報告会を実施。センター方式について知りたいという声が多く、センター方式を活用した事例『若年性認知症の困難事例』をケアセンターりんどう稲田が報告した。(参加者 21 名)
- ・平成 20 年 3 月、「もしわたしが認知症になったら」とのテーマで勉強会を行う。4 月からの勉強会のイメージを理解してもらうため演習中心のプログラムとした。センター方式勉強会のチラシ作成。(参加者 30 名)
- ・平成 20 年 3 月、鎌倉市の 20 年度施策と方針説明会の席で、『かまくら認知症ケア研究会』及び『センター方式勉強会』について説明が行われた。
- ・平成 20 年 4 月、第 1 回センター方式勉強会を実施。(参加者 69 名)
- ・平成 20 年 5 月、第 2 回センター方式勉強会を実施。(参加者 58 名)
- ・平成 20 年 5 月、幹事会、組織化について話し合う、ケア関係者数名に新たに幹事を依頼、幹事会の立ち上げ。鎌倉市主催「研修会 8.23 地域でその人らしく暮らし続けるために」について協議、概要案の作成にとりかかる。
- ・平成 20 年 6 月、第 3 回センター方式勉強会を実施。(参加者 43 名)
- ・平成 20 年 7 月、第 4 回センター方式勉強会を実施。(参加者 41 名)
- ・平成 20 年 7 月、幹事会、センター方式勉強会アンケート結果を報告。8 月の市主催研修会概要(研究会作成)の説明と進捗状況の報告。「医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」報告他。
- ・平成 20 年 8 月、鎌倉市主催「研修会 8.23 地域でその人らしく暮らし続けるために...いま私たち出来ること」にシンポジストとして参加。福岡県大牟田市の活動の視察報告(2008 年 6 月 6~8 日にかけて行われた「地域密着型全国セミナー in おおむた」小中学生向けの認知症絵本教室の展開を視察内容の報告)を行う。研究会は企画調整の他、会場設営や準備作業に協力し、研修会後の交流会を主催した。
- ・平成 20 年 9 月、「認知症の基礎的理解」のテーマで研修会を開催。(参加者 42 名)

- ・平成 20 年 10 月、幹事会、人と人とのつながりやネットワークの在り方を考える事例として、市内の介護事業所職員と家族会、有料老人ホームが連携した事例について説明し、「地域ケアネットワークの在り方」をテーマに報告会を実施することを決める。
- ・平成 20 年 11 月、「地域ケアネットワークのあり方」のテーマで報告会を実施。市内の認知症家族会、デイサービスの職員が連携し、有料老人ホームの困難事例改善活動をサポートした経緯や、改善活動の内容が報告された。研修会後に交流会を実施。(参加者 59 名)
- ・平成 21 年 1 月、事業所職員同士の支え合いを目的に「参加者提案型の事例検討会」を行う。検討会では介護事業者から困難に直面している実際の事例を提出してもらい、参加者がケアのアイデアや支援の在り方を提案する、参加者提案型の方法で行った。(参加者 66 名)
- ・平成 21 年 2 月、幹事会、平成 20 年度活動内容の振り返りと、平成 21 年度の活動について協議。かまくら認知症ケア研究会「規約」の原案及び会員名簿の作成方法について話し合う。
- ・平成 21 年 3 月、幹事会、平成 21 年度上半期のスケジュールを検討、研究会規約「目的」の一部修正を行うとともに、他機関と連携した活動について話し合う。
- ・平成 21 年 4 月、「事例で学ぶ認知症の人への対応 (B P S D への対応) 」というテーマで研修会を行う。講師を研究会代表が務める。(参加者 101 名)
- ・平成 21 年 5 月、「ケアネットワークを考えよう！」というテーマで、自由に意見交換を行った。
- ・平成 21 年 5 月、幹事会、「認知症地域支援フォーラム 7.11」の開催概要を説明。開催までのスケジュールの確認、講師やシンポジストの打ち合わせ状況の確認を行う。フォーラムは、主催：鎌倉市健康福祉部市民健康課 共催：かまくら認知症ケア研究会 神奈川県鎌倉保健福祉事務所 鎌倉市高齢者いきいき課となることを説明。
- ・平成 21 年 6 月、幹事会、「認知症地域支援フォーラム 7.11」タイムスケジュールの作成、パネル展示、会場設営、スタッフの役割の確認を行う。行政 (鎌倉市、保健所) ・研究会・ボランティアの全スタッフ (25 名) が「スタッフ」と書かれた共通の名札を下げることを決める。研究会がフォーラム全体の進行を担うこととなる。
- ・平成 21 年 7 月、幹事会、「認知症地域支援フォーラム」タイムテーブル、作業手順を確認。
- ・平成 21 年 7 月、「認知症地域支援フォーラム 7.11 認知症になっても地域で暮らすために」を鎌倉市と共催で開催。研究会は企画調整、会場設営やパネル展示、休憩処の設置、当日の司会進行を担当。午前は永田久美子氏による講演、午後は市内の中学生による認知症福祉体験学習、認知症家族会、認知症サポーター養成講座の報告をおこなう。市民、地域福祉活動団体、自治会、中学校校長がシンポジストとなり、地域全体で認知症の人を支えるために活発な意見交換が行われた。フォーラム終了後の交流会は研究会が主催。(参加者数は 198 名、スタッフ 25 名)
- ・平成 21 年 8 月、福岡県大牟田市の取り組みを視察、また大牟田市認知症ケア研究会主催の報告会にて、認知症啓発絵本「いつだって心は生きている」を活用した鎌倉での取り組みの報告を行った。
- ・平成 21 年 9 月、幹事会、今後の活動について話し合いを持つ。研究会立ち上げから今日までの経緯を踏まえ、また鎌倉市における認知症の人の置かれた状況を検討し、平成 22 年度以降は認知症ケアを通じた地域ケアネットワーク作りに重点を置いた活動を行うこととなる。研修チームと地域ケアチームを新たに設置。具体的な活動内容の検討を行った。

*平成 21 年 9 月 30 日現在、会員数 97 名、幹事 15 名、オブザーバー 4 名

4. 活動の成果と今後の展望

マイナスを力に

かまくら認知症ケア研究会の立ち上げから現在までの活動を振り返ると、介護事業所などの職員の有志が手弁当で集い、明確な問題意識を持ち、ていねいな話し合いを積み重ねてきた経緯のあることを思い起こします。私たちは時に立ち止まり、迷いながらも、互いの立場を超えて、認知症の人を取り巻く課題をひとつひとつ整理してきました。私たちの取り組みが継続できた背景には、行政の協力が大きな力になったのはいうまでもありませんが、見方を変えれば、会費も予算も事務局もないマイナスを力に変える視点（ストレングス）を大切にすることに大きな意味があったと思っています。

協働とは単なる融和を誘う意識のことではありません。互いの違いを認め、理解しようと努める姿勢が貫かれてはじめて、支えあいの意識や多職種の連携、協働の精神が成り立つのではないのでしょうか。介護事業所の職員の有志が集い、認知症介護の資質の向上と地域ケアネットワークの構築へ向けた取り組みを実践していくなかで、同じ思いを共有するたくさんの仲間が生まれました。そして私たちの取り組みも、地域全体を視野に入れた活動へと変化しつつあります。

平成 21 年 9 月 8 日の幹事会に於いて今後の活動について話し合いを持ち、平成 22 年度以降は認知症ケアを通じた地域ケアネットワーク作りに重点を置いた活動を行うこととなりました。研究会の中に研修チームと地域ケアチームを新たに設置し、公的サービスの枠組みで支援できないニーズへ向けた取り組みを行うこととしています。

具体的には以下のような活動を考えています。

みんなで生き活きかまくら散歩

若年性認知症の本人家族、専門職、認知症サポーター、子供サポーターらと一緒に、鎌倉の自然、お寺巡りや季節の花めぐりなどの散策を楽しむ。今年度 11 月に試験的に実施予定。

本人交流会

若年性認知症の方など、物忘れで困っている人が対象。本人支援の経験を重ねたうえで来年度に実施を検討中。

小中学生向けの認知症の福祉体験学習

従来の福祉体験学習を活用、学習の中に認知症を学ぶ内容を織りまぜる試み。平成 20 年度に市内のデイサービスで同様の取り組みが実施され、認知症地域支援フォーラムに於いて子供たちによる発表が行われた。

子供サポーター養成講座の開催協力

鎌倉市市民健康課主催の子供サポーター養成講座への開催協力や講座プログラムの検討、プランの作成と提案、講師派遣を検討中。

介護現場をめぐって、昨今、様々な困難な現状（人手不足や賃金の問題など）が報道されています。しかしそんな時ほどチャンスかもしれません。私たちはこれからも認知症の人を取り巻く課題を見据え、困難な状況をプラスに変える力になりたいと思っています。

かまくら認知症ケア研究会 代表 稲田秀樹

かまくら認知症ケア研究会

< 活動の内容 >



認知症の人を支えよう！
介護事業所の職員たちが立ち上げた
かまくら認知症ケア研究会の取り組み

お好み焼屋が出発点

2007年の秋、お好み焼屋でレジメと配布資料のある飲み会が行われました。活発な意見交換の行われたその日が、かまくら認知症ケア研究会の出発点となりました。

話し合いを大切にする姿勢

飲み会の翌々日には鎌倉市高齢者いきいき課と協議、かまくら認知症ケア研究会立ち上げの方向で意見が一致し、オブザーバー参加の約束も取り付けました。その後も私たちは定期的に会合を持ち、粘り強く認知症をとりまく現状と課題について話し合いを行いました。

予算も事務局もないからできた

研究会には予算も事務局もありません。勉強会案内の郵送には市の協力を頂いています。予算や事務局がないからこそ皆が知恵を出し合い、協力し合うことができたのです。



勉強会風景



鎌倉市高齢者いきいき課には立ち上げの頃からオブザーバーとして参加してもらっています。貴重な意見や協力に感謝！



センター方式勉強会では本人本位のケアを実践するため、実際の事例を持ち寄ってケアの工夫やアイデアについて語り合いました。



会場には常にコーヒーやちょっとしたお菓子でひと息つける休憩処を設けています。テーブルの上にはカンパの小瓶が置かれています。





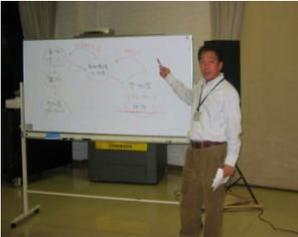


あたたかい事例検討会



ケア関係者による支え合いの試み
さあ自分事と想って考えよう！

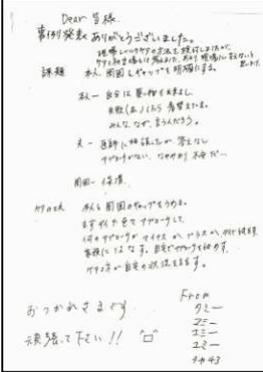




検討会の目的を説明



困難な状況の本人と家族、ケア関係者を支える目的で行った事例検討会。提案シートはまるで手紙のよう。参加者からは「大変ですが頑張ってください」という励ましの声が出たり「ありがとうございます」という感謝の言葉が語られた。



提案シートは手紙のよう...

市内の介護事業者や自治会、家族会らに参加を呼びかけ、いま自分たちに出来ることを一緒に考えました。私たちは研修会の企画全般と概要案の作成を担当し、会場設営、受付なども全面的に協力しました。また研究会代表による「大牟田市の認知症絵本教室の視察報告」も行ない、参加した市民やケア関係者からは活発な意見が出され、翌年につながる一歩を踏み出しました。



2008.8.23
鎌倉市主催研修会
地域でその人らしく
暮らし続けるために



認知症地域支援フォーラム

認知症になっても地域でその人らしく暮らすために

2009年7月11日(土)

鎌倉市との共催で実現した2009年のフォーラムです

認知症地域支援フォーラムでは企画構成全般を担当、中学生による認知症体験学習の報告も行われ、自治会関係者や地域福祉団体、学校、家族会も巻き込んだ、まさに地域全体の取り組みとなりました。地域の活動を紹介するコーナーも設け大盛況でした。









これまでの活動

私たちのこれまでの取り組みは、介護事業者の資質の向上、本人本位のケアの実現に重点を置いて、そのため勉強会・研修会を主に開催してきました。

これからの活動

刻々と変化する社会、自分たちをとりまく状況を見据えながら、私たちが何をすべきなのかを検討した結果、勉強会等に加え、今後は認知症ケアを通じた地域づくりに重点を置いた活動を行っていきます。

活動の具体とアイデア

認知症ケアの専門性を生かした社会資源の一つとして、公的サービスの枠組みでは支援できないニーズに応えていきたいと考えています。まずは若年性認知症の方たちの交流支援の一つとして、「みんなで生き活きかまくら散歩」を計画中です。

かまくら認知症ケア研究会 幹事のみなさんです

